

# れんけい だより

Vol. 75

国家公務員 横須賀共済病院 広報誌  
共済組合連合会

地域医療支援病院

救命救急センター

周産期母子医療センター

臨床研修指定病院

地域がん診療連携拠点病院

がんゲノム医療連携病院

神奈川 DMAT 指定病院

神奈川県災害医療拠点病院

DPC 特定病院群

病院機能評価(3rdGVer.1.1)



# 医療×AIが挑む 日本医療の新時代

## CONTENTS

医療×AIが挑む日本医療の新時代 … P 2

チーム横須賀共済病院

COVID-19 への取り組み … P 3

診療科部長に聞く … P 4

救命救急症例検討会 … P 5

TOPICS

臨床と病理の対話 … P 6

TOPICS

医療従事者研修会 … P 7

部署探訪 … P 8

地域医療研修 … P 10

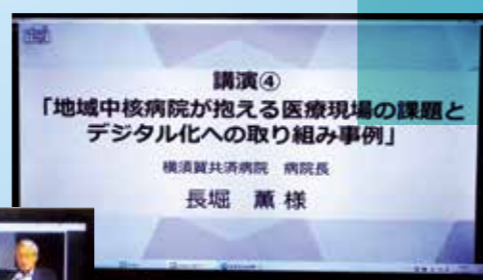
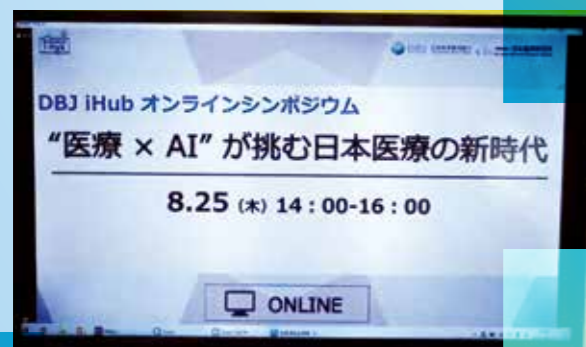
医療機関訪問 … P 11

# 医療 × AI が挑む日本医療の新時代

横須賀共済病院 病院長 長堀 薫

## 「DBJ iHub シンポジウム って、何でしょう？」

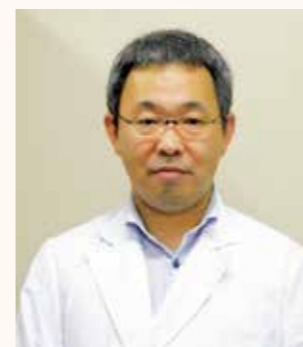
当院に連携いただく医療・介護機関、行政などご協力いただいているみなさまに感謝いたします。  
さて、寡聞にして存じない組織から、時には雲の上からいきなり講演のご依頼をいただきます。WHO 西太平洋事務局、ヘルスケアダイバーシティ学会、医療福祉建築学会、おつきな企業さんなどで、今回の DBJ は Development Bank of Japan の略、財務省が管轄する政策投資銀行です。iHub(イノベーションハブ)は、オープンイノベーションを通じて社会課題をビジネスで解決するための「場」ということで、厚労省、日本医師会、医療 AI プラットフォーム技術研究組合のみなさまと登壇し、当院の AI ホスピタルプロジェクトについてお話ししました。  
労働集約産業の最たるものが病院の事業、人を投入するしかないと捉えられている。ただ、膨大な事務作業があり、もっと効率化すれば楽になることが山ほどある。これらを AI 中心のデジタル化技術に助けをもらい、日本の病院の働き方を変えようという取り組みです。  
参画している内閣府の 5 年プロジェクトが今年で終わるので、なんとか DBJ など投資してもらえればと、頑張ってお話ししました。



チーム横須賀共済病院

# COVID-19 への取り組み

## 中等症



呼吸器内科 部長  
夏目 一郎

新型コロナウイルス感染症は、2019 年 12 月に中国・武漢で集団発生し、2020 年 1 月に日本に初上陸してから、まもなく 3 年を迎えようとしています。PCR センターの開設や入院対応など、横須賀三浦の病院が一丸となって診療を行ってきたことを考えると、感慨深いものがあります。第 7 波では多数の患者さんが発生し、当院だけでは対応しきれない状況でした。悔しい思いもありましたが、それでも地域診療を支えて下さった診療所や施設の先生方には感謝の思いしかありません。改めて、この場で厚く御礼申し上げます。

現在はまだオミクロン株の流行下にありますが、10 月下旬では比較的落ち着いている状況です。今後としては粛々と感染対策の継続やワクチン接種の励行を継続するしかないと思います。それでも新型コロナウイルス感染は一定数から減少しない可能性はあります。しかし、幸いなことにオミクロン株は重症化率が低いとされています。様々な問題はありますが、一般感染症として新型コロナウイルスに対応できるようになり、コロナ前の社会活動に戻ることを期待したいと思います。



## 重症



救急科 部長  
土井 智喜

平素より皆様のご理解とご協力を頂きながら日々の診療ができていることに感謝いたします。私見となりますが、COVID-19 への取り組みについて見解を述べさせていただきます。

### ①今までの体制 × 今後の気を付けること

当院の COVID-19 への取り組みは、2020 年 2 月のクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」の DMAT 活動がはじまりでした。その後 2020 年 4 月の 1 回目の緊急事態宣言から 4 回目まで発出され、市中感染症となった今までの約 2 年 8 ヶ月が、当院として COVID-19 へ立ち向かった時間です。

振り返ってみれば、「神奈川モデル」にならい病院一丸となって、地域医療を越えて県全域で対応できたと考えております。その要因は、病院長や感染制御部をはじめとするリーダーシップ、情報の可視化、現場意見を取り込む柔軟性、現場を含めた実行力であると思います。その原動力は今後も重要であると考えています。

### ②地域医療機関へのメッセージ

COVID-19 パンデミックは災害と同様、混乱が生まれました。今はその混乱が落ち着き、通常医療の活動に近づいていると思います。このコロナ禍の経験から、医療のデジタル化に向けて世の中が大きく動いています。With コロナ社会は新たな医療の幕開けです。

COVID-19 診療で取り組んだ経験をこれからの通常医療にどのように組み入れるか。三浦半島地域の“総力戦”で、患者情報を共有しやすい、効率的で働きやすい、有事にも強い、安心安全かつ最適な医療が提供できる病診・病病連携が進むことを強く望みます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



# 薬物療法に偏らない 機能的精神医学の実践

精神科 部長  
光定 博生

## 精神科のウリについてお聞かせください。

### 外来診療にも注力

2022年3月より精神科医3名体制（いずれも精神保健指定医、精神科専門医・指導医）となりました。更に10月からは精神科専攻医を受け入れ精神科医4名体制となります。これまでは身体科に入院中の患者さんの併診（リエゾン・コンサルテーション）を中心に行ってきましたが、医師の増員に伴い外来診療にも力を入れていきます。

### 機能的精神医学の実践

機能的精神医学は比較的新しい概念で、症状の改善を目標とはせず、患者さんの関心や価値に寄り添い、患者さんがより良い人生を送れるようになる事を目標とする立場をとります。従来の精神科医療は症状の改善を目的とした薬物療法が中心でしたが、多くの精神疾患は薬物療法だけでは十分な回復が期待できません。みなさまの周りにも向精神薬を長年内服しているにも関わらず、あまり良くなっていないと言う患者さんがいらっしゃるのではないでしょうか。当院の精神科では薬物療法による症状のコントロールに偏らない機能的精神医学の実践を心がけています。

## 最近のプライベートの 楽しみを教えてください。

釣り、ビーチコーミング、ヨガ、バイク、小動物の飼育など趣味は色々ありますが、コロナ禍で外出を控えるようになった時期に野菜や果樹の栽培をはじめ、すっかりはまっています。現在は夏野菜の収穫も終わり、レモンやオリーブが色づくのを待っているところです。



## 地域の先生方にメッセージをお願いします。

現在は医師が増えた事もあり、あまりお待たせする事無く外来初診の予約が取得可能です。身体愁訴や不眠、不安、抑うつなどで精神科以外を受診する患者さんも多いのではないでしょうか。そのような方がいらっしゃいましたら、薬物療法を開始する前に是非当科にご紹介ください。

### Profile

#### 出身校

東京医科歯科大学  
平成16年(2004年)卒

#### 専門領域

リエゾン・コンサルテーション精神医学  
アクセプタンス&コミットメント・セラピー

#### 所属学会

日本精神神経学会  
日本総合病院精神医学会  
日本認知症学会  
日本認知・行動療法学会  
日本行動分析学会  
ACBS(Association for Contextual Behavioral Science)

#### 認定資格

精神保健指定医  
日本精神神経学会 精神科専門医・指導医  
日本総合病院精神医学会  
一般病院連携精神医学専門医・指導医  
日本認知症学会 専門医・指導医  
医師会認定産業医

# 救命救急症例検討会

2022年10月18日に当院にて、救急症例検討会を開催しました。

本検討会は、日頃の救急症例を題材に、救急隊病院前活動や搬送後病院治療を相互に提示し、当該症例での問題点や、日々進歩する中での標準治療を検討する勉強会です。

## 症例1

心室細動で搬送され冠攣縮性狭心症の診断に至った症例  
循環器内科 高橋 健



循環器内科  
高橋 健

## 症例2

糖尿病性ケトアシドーシスによるショックの一例  
救急科 松尾 璃瑠子



救急科 松尾 璃瑠子

## 症例3

発熱、意識障害に続いて痙攣重積を呈した30歳男性例  
脳神経センター 脳神経内科 金 亮秀



脳神経センター 脳神経内科  
金 亮秀

救急隊の皆様には日々の適切な病院前救護と情報共有に感謝申し上げます。本年7月から脳神経センターが開設され、これまで以上に迅速な脳卒中治療を行なっていきたいと考えております。引き続き、よろしくお願いいたします。

今回は、まず「てんかん」と「急性症候性発作」についてお話ししました。てんかんは小児期から発症する特発性てんかん和高齢になって外傷や脳卒中、腫瘍を契機に発症する症候性てんかんに分けられます。近年高齢化が進み症候性てんかんの患者さんは増加しており、脳卒中の既往や抗てんかん薬の内服歴の確認は重要です。

次に、痙攣を主訴に救急要請となる患者さんは少なからずおられますが、てんかんの既往がない場合、急性症候性発作の可能性も考えて、低血糖や電解質異常、アルコール歴などに留意ください。最後に、既往のない若年男性が発熱を契機に難治性痙攣重積状態となった一例をご報告させていただきました。

本会が皆様の救急活動の一助になれば幸いです。



# 臨床と病理の対話

## Clinicopathological Correlations in Dermatopathology

マサチューセッツ総合病院の症例から学ぶ  
Massachusetts General Hospital (MGH)



講師 Rosalynn Nazarian 先生  
マサチューセッツ総合病院病理部門 /  
ハーバード大学医学部准教授

2022年8月2日に当院にて、  
医学教育講演会を開催しました。



初期研修医 1年  
鬼頭 知之

この度、医学教育講演会にて Rosalynn Nazarian 先生の講演を拝聴させていただきました。

第一部講演では、先生のアメリカでの病理医師としてのキャリア、働き方から私生活についてさまざまなことを学びました。

第二部講演では皮膚固有疾患を中心に幅広い疾患について症例を用い解説いただくことで、臨床と病理の関係について知見を深めることが出来ました。今後臨床と病理の関係の重要性を意識しつつ、連携を強めていきたいと考えます。

このような貴重な機会をご用意していただいたことに感謝いたします。



初期研修医 1年  
澤口 圭宏

この度、臨床と病理の対話に参加させていただきました。

臨床病理学 (Clinical pathology) とは臨床と病理が互いの所見を活用し合うことにより診断に迫っていく領域です。知識的に挑戦的な部分もありましたが、10以上の症例を用いながら解説していただくことにより、本領域の奥深さや多領域の連携の重要性を実感することができました。

このような馴染みのない領域であることに加えて国際的な交流を通じて得られた経験は貴重であり、今後の臨床医としての成長に活用したいと考えます。

# 医療従事者研修会

## 第2回 研修会の開催報告

2022年9月22日 認定看護師による、医療従事者研修会を  
WEB形式で、開催しました。



乳がん看護認定看護師  
安藤 梢

## 第1部 終末期のリンパ浮腫・むくみのケアについて

地域の皆様には、平素よりお世話になっております。また日々ご多忙の中、研修会にご参加いただきまして、ありがとうございます。

今回は「終末期のリンパ浮腫ケアについて」お話させていただきました。終末期のリンパ浮腫治療の目的は、積極的な浮腫の軽減ではなく症状緩和が中心となり、患者さんがケアを希望し苦痛が伴わないことが大切になります。

緩和を目的とした浮腫のケアの方法として、①スキンケア②疼痛の緩和③心理社会的ケアがあげられます。中でもスキンケアは特に重要であり、皮膚の清潔・保湿・保護が感染予防や家族への介入依頼にもつながります。終末期の皮膚は脆弱で傷つきやすい状況にあり、患者さんの状況に合わせてケアの方法を考え、患者さんが苦痛なく安楽に過ごす事ができる様に介入していくことが大切だと考えます。またケアの方法においては在宅でも継続してケアできる様に退院後の生活を見据えて介入していく事も大切です。

浮腫のある患者さんは退院前カンファレンスなどを通して、在宅でも継続してケアが実施できる様に、取り組んで行きたいと考えています。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## 第2部 褥瘡評価方法の変更点とキズの見方 ～改定DESIGN-R<sup>®</sup> 2020について～

地域の皆様には、平素より大変お世話になっており、また日々ご多忙の中、研修会にご参加いただきまして、ありがとうございます。

今年度、診療報酬の改訂において褥瘡の評価ツールがDESIGN-R<sup>®</sup> からDESIGN-R<sup>®</sup> 2020へと変更となりました。今回の変更点としては大きく2点あり、最初に浅い褥瘡と評価したにもかかわらず重症化する「DTI(深部損傷褥瘡) 疑い」と炎症・感染等の変化に気づかず治癒が遅延してしまう創傷である「臨界的定着疑い」が新しく加わりました。詳細に評価することで、適切な処置および早期改善へとつながると考えます。

また、今回「スキフレイル」に関するお話させていただきました。スキフレイルとは、皮膚が局所的に、萎縮、粘弾性の低下なので変性を来している状態であり、【皮膚の虚弱・脆弱状態】を意味します。スキフレイルは適切な予防行動を取れば、健康な皮膚へ戻ることができる状態でもあり、スキンケアが重要となります。特に保湿は皮膚の弾力性が増しキズつけ難い皮膚をつくります。継続した保湿を心がけ、一緒に患者さんの皮膚を護りましょう。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



皮膚・排泄ケア認定看護師  
慶 貴子

# 部署探訪

## 地域連携センター

### 総合力で向き合う

### 地域連携センター



副院長 兼 センター長  
豊田 茂雄



副センター長  
大野 直子

地域連携センターは、患者さんをご紹介くださる医療機関との協力体制の連携強化を更に進めています。また、退院や転院、治療継続のために、患者さんやご家族が抱える問題に対する相談・支援の充実に努めております。

地域連携室やPFMで得た患者さんの情報を多職種で共有し、安心して入院生活を送れるように、看護師や医療ソーシャルワーカー、薬剤師、管理栄養士などの多職種が主治医と密に連携しています。今年度は入院前から患者さんのサポートを開始する体制を充実させ、総合相談のスタッフを中心に、入院前から退院に向けた支援を積極的に行っています。

地域医療の更なる発展のため、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

副センター長 大野 直子

#### 地域連携室



地域連携室 事務課長  
山田 真也

地域連携室では、主に地域の先生方からの紹介に関する業務をおこなっております。

紹介などお困りの際には、地域連携室をご利用ください。

地域の潤滑油となるよう努力してまいります。よろしくお願いいたします。

#### PFM 管理室



PFM 師長  
谷口 津穂子

PFM 窓口では、入院が決まった患者さんへ問診し、入院生活や治療の流れを説明します。

安心して入院生活がおくれ、退院できるようにリスクアセスメントし、入院担当部署へ情報を繋げていきます。

#### 病床管理室

病床管理室は、院内全体のベッドをコントロールする部署です。

予定・緊急入院ともに患者さんがスムーズに入院ができる様にベッドを確保しています。また入院期間が適切になるように各診療科や病棟と連携しています。



病床管理室 兼 CP 管理室 師長  
曾宮 はるみ

#### CP 管理室

院内のCP(クリニカルパス)は、標準的な治療計画や入院生活の指導などを多職種で検討し作成しています。入院診療計画書として患者さんへもお渡ししています。また地域連携パスも御活用下さい。

#### 総合相談 退院支援室



総合相談退院支援室 師長  
井上 はるみ

退院支援担当者が病棟に常駐し、入院時から患者さんの不安や困っていることを直接ベッドサイドで聞いて医師、看護師、コメディカルとタイムリーに情報交換しながら患者さんを中心とした退院支援を行っています。

#### 総合相談 医療福祉室



総合相談医療福祉室 室長  
道鎮 由起子

医療ソーシャルワーカーは、身体・社会・経済などの問題から様々な不安を抱える患者さんやご家族に対して福祉的な視点から支援を行い、必要に応じて行政や地域と連携し患者さんとの架け橋になります。

#### 看護相談 がん相談



総合相談看護相談・がん相談支援室 師長  
高野 寿子

当院での外来受診、入院の時「どこに行けばいいの?」「どうしたら、いいんだろう?」など、患者さん、ご家族のお困りごと、お悩みを、お受けしています。また、がん相談は、他院におかかりの患者さん、ご家族のご相談にも対応しています。

皆さまの架け橋になれるよう今後とも努力していきますので、よろしくお願いいたします。



# 地域医療研修



横須賀共済病院  
初期研修医 2年  
青木 久遠

2022年10月に、地域医療研修として、野村内科クリニックでの一般外来訪問診療に2週間に渡り帯同させて頂きました。

外来では、患者さんが話しやすいような適切な距離感でお話しをさせて頂いて、生活の状況等にまで丁寧に気を配っておられるのが印象的で、患者さんから十分な信頼を得られているのを感じました。

訪問診療では、癌の終末期の方から人工呼吸器管理をされている方まで、様々な方のお宅に伺いました。家庭の環境や疼痛のコントロール、食事や排泄等、それぞれの問題点を十分に把握した上で、オーダーメイドの丁寧な対応を行っておられました。

同じ医療圏の患者さんの生活現場を見るのはとても貴重な経験でした。また、先生方の姿から医師としての基本的な姿勢をたくさん学ばせていただきました。

自身は今後しばらくの間は急性期の診療に携わることになりますが、病院から出たあとの患者さんの生活を想像した上で診療を行うことが、全人的医療を提供する上で欠かせないのを感じました。野村内科クリニックの野村先生、佐々木先生をはじめ、お世話になったスタッフの皆様がこの場をお借りして厚く感謝申し上げます。

## 野村内科クリニック

10月3日から青木 久遠 先生に研修に来て頂きました。事前アンケートで「救急集中医療を志しているが、それと違う回復期や在宅の現場を見てみたい」との希望があり、一般内科外来と在宅でのバリエーションを考慮しました。

外来では生活習慣病、認知症、喘息、発熱トリアージ、急性期病院から在宅へ移行途中のがん患者などの診察に同席してもらいました。在宅ではALS、HAM、重症慢性心不全、脳梗塞後遺症、肺気腫&廃用、乳がん末期、小児、重症心身障害者などの患者さんの居宅と一緒に過ごしました。

三浦半島をあちこち車で移動してリアルな生活の場を見ることができたと思います。また横須賀市医師会と市内総合病院で取り組んでいる「在宅患者登録」の情報交換シートも記載して頂きました。立場が変わるとこんな仕事をしているのだ、ということを経験してもらえたなら有意義だったと考えます。

若い先生に来て頂けて、野村先生やスタッフ一同、いい刺激を頂きました。



院長 佐々木 純久 先生



# 医療機関訪問

## 久里浜横井クリニック【在宅医療開始】

【在宅医療開始 2022年4月4日】

馴染みの方もいらっしゃると思いますが、私は2020年4月から2022年3月の2年間、コロナで言うところの第1波から第6波の間、共済病院の救命救急センターに勤務しておりました。

救急車搬送件数全国2位の救急診療をこなしながら重症コロナ肺炎の治療に奮闘した2年間は救急医人生において決して忘れることはないでしょう。

さて2022年4月からは父が開業しているクリニックを手伝い、在宅診療を立ち上げました。決して断らない横須賀共済救急OBとして恥じないようにNG一切なしで紹介は全て「はい喜んで!」。そして持ち前のフットワークを武器に毎日横須賀の隅々まで駆け回っております。

クリニックのInstagramを始めました。「#久里浜横井クリニック」と検索していただければ私の在宅診療活動を見ることが出来ますのでご興味がある方は是非ともご覧になってください。

最後に今でも共済病院の救急当直を定期的(第1,3,5金曜日)に行っています。

これは今でも救急医として役に立ちたい。必死に頑張っている若い先生たちや看護師たちから刺激を受けたいからです。

今後とも末長くよろしくお願い致します。

久里浜横井クリニック 副院長 横井 英人



副院長 横井 英人



H.YOKOI.HYC

## あき・アイクリニック

【新規開業 2022年7月19日】

先代である父が愛した横須賀の佐野町でこの度眼科医として開業させて頂くことになりました、院長の加藤明世と申します。

これまで横浜市大福浦病院や関連病院で経験を積み、前職では横浜東邦病院眼科医長として地域医療に取り組んでまいりました。

「人間の情報は8割が視覚から」と言われるように、健康の目は人の生活を豊かにしてくれます。

父が命名してくれた「明世」という名前のように、皆様に明るい世の中を見届けて頂けるように、気軽に相談できる街のホームドクターとして健康のサポートをさせて頂きたいと思っております。

今後とも宜しくお願い致します。

あき・アイクリニック

院長 加藤 明世



院長 加藤 明世 先生



## ホスピタリティ研修

医療事務職員を対象に、ホスピタリティ研修を開催しました。

ホスピタリティとは、一般的に「思いやり・心からのおもてなし」などの意味で捉えられます。人と人がかかわるあらゆる場面で、患者さんだけでなく組織内でのスタッフ同士のやり取りでも活用できる研修会となりました。



## 退職医師 2022年9月30日付

- 脳神経外科 … 高寺 睦見、岡野 将之
- 呼吸器外科 … 山崎 龍人
- 放射線科 … 稲垣 小百合

- 整形外科 … 熊原 悠生実
- 麻酔科 … 服部 紗千、常田 英俊

## 理念

よかった。  
この病院で

患者さん・家族・職員  
すべての人が安心できる  
病院をめざします

## 編集後記

日も短くなり、夜になるとイルミネーションが街を彩る季節になりました。

イルミネーションの美しく輝く光は、暗い雰囲気を一掃させ、街ゆく人々にワクワクや感動を与えてくれます。

また、暗闇を照らす光は、人の心をポジティブに導いてくれる効果や、心を癒してくれる効果があるそうです。

「れんけいだより」も、明るくポジティブな気持ちになれる情報をお届けできるよう努力して参ります。

今年も残りわずかですが、横須賀共済病院とれんけいだよりを、よろしく願いいたします。

地域連携室 山田・宮坂・加藤

## 国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院

〒238-8558 神奈川県横須賀市米が浜通 1-16  
TEL 046-822-2710(代表) FAX 046-825-2103(代表)

## 地域連携センター地域連携室

TEL 046-827-1117(直通) FAX 046-823-5020(直通)

## YKH れんけいだより vol.75

発行日：2022年(令和4年)11月24日  
編集：地域連携センター地域連携室